

# すぎのこ



幼保連携型認定こども園  
尚綱大学附属こども園

## 時代は変わってもいいものはい

帰宅して一息ついた後、YouTubeを見るのが楽しみです。スポーツのハイライトを見たり、コントや漫才などのお笑いを見たり、音楽のライブ映像を見たり、おもしろいなお店の紹介を見たり、その日の気分によって変わります。(気を付けないといけないのは次から次に流れてくるショート動画を止められなくなって就寝時間が遅くなることです。)

音楽のライブ映像では私が若かったころの音楽、シテイポップがYouTubeのおかげでブームを迎えています。ですが、それと同世代で特に若いころ大好きだったギターリスト高橋正義が、今海外の若者の間で大人気です。五千人入る会場があつという間に売り切れになっています。そのライブの映像を見ると若者と一緒

ような気がします。あるサイトで、単なる懐古ではなく、「今の時代の感覚で聴いても心地よい音楽」として再発見されている点が大きなポイントだとありました。

いつの時代でもいいものはい。それが分かってもらえるというのは嬉しいものです。

話は違いますが、園長室の本を見ていたら今から二〇数年前の尚綱短大、浜崎教授が書かれた文章が目にとまりました。その一節を紹介します。

かつて、地域には子ども達の群れが存在しました。そこには自由に遊べる場所と時間。そして仲間がいました。身の回りに棒や葉っぱやワラ等の遊びの素材が転がっていたのです。どこで、どれぐらい

の間、何をして遊ぶかは、子ども自身及び子どもも集団自身が自由に選ぶことができたのです。……

子どもの遊びには原則的に立派な施設は必要ないので、子どものフアンタジー(空想)を充足させる場所と時間と素材があればいいのです。素材を立派な家や宮殿や怪物やお化けに加工するのは、子どものイメージシヨン(想像力)です。



この文章を読みながら、「ほかほかの家を葉っぱや砂や石を持ってきてはアイスクリーム屋さん」仕立てたり、石のプールに木切れや葉っぱを持ってきてはバーベキューを始めた。それはその期待に込んでいる園だと思

時代はたつてもやはりいいものはいいいのです。

昨年度末の学校評価の中に「最高の環境です」子ども達を尚綱こども園に通わせる「と決めた」とが、数少ない私の人生におけるフアンプレーです。とありました。そのような思いの方が一人でも増えてもらえるように努力してまいります。

## 避難訓練の取組み

園では県の条例に沿って毎月避難訓練を行っています。初めて参加する園児が多い年少さんは、四月は非常ベルを経験し避難するという行動があることを知るためにベルを聞いてデッキに出るまでの訓練でした。



少々戸惑っていた部分もありましたが、事前先生から話を聞いていたので概ねスムーズに行動することができました。義務教育では年に数回なのに対して就学前は毎月です。

実際の災害時は大きな音や揺れで子どもたちがパニックになったり職員も動揺してしまったりすることでしょう。普段とは違う状況で判断力が低下するものです。だからこそ、日ごろから繰り返し訓練することで、体に動きを覚えさせることが子どもを守るためにとても重要になります。

東日本大震災のとき、多くの犠牲が出ている中、保育園は日ごろの訓練のおかげで被害を最小限に抑えることができました。毎月の避難訓練が活かされた証でしょう。これは決して偶然ではありません。繰り返し行われてきた避難訓練が、実際の災害時に子どもたちの命を守ったのだと思います。

五月からは年少さんも園庭や駐車場などに出て避難するようになります。一年たつと見違えるように上手になってきます。知識も豊富になってきます。手で口を覆ったり腰をかめたりする園児も増えてきます。これからの成長を楽しみにしてい

ださい。